

No.743 October 2018

ASAHIACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち

2018

10

No.743

名産のワインを生む 自慢のぶどう

(朝日町ぶどう生産組合／柏原地区)



朝日町役場庁舎および開発センター バリアフリー対応工事（エレベーター・2階ホール）が完了

この度、町役場庁舎および開発センターへのエレベーター設置工事が完了し、10月1日、開通式が行われました。

全ての方にやさしく、利用しやすい環境づくりのため、今年3月末から整備を進めていたもの。エレベーターは正面玄関を入ってすぐの施設中央部に設置し、1階から2階までのフロア移動に対応しています。

総工費は約6,266万円。県指定の基準に則り、床面積1.89平方メートル、奥行き135センチ、入口幅80センチを確保。積載限度750kgで、定員は11人となっています。

開通式では、鈴木浩幸町長が「特

にご高齢の方や体に障がいを持つ方にあっては、フロアの移動に多大な労力を要し、施設のバリアフリー化は喫緊の課題であった。この度それを解消する素晴らしいエレベーターの完成にあたり、設計・工事にあつた関係各位に感謝申し上げるとともに、町民の皆さんには、より一層の施設活用をお願いしたい」とあいさつ。

町ではさらに、エレベーターの設置に合わせて多くの町民が利用する開発センターホール（2階）のバリアフリー化を完了。全面絨毯張りとし、土足の履き替えが不要になったことに加え、出入り口の段差を一部解消し、

車イスでもスムーズに出入りできるよう改善しています。

エレベーターは毎日午前8時30分から午後5時15分まで稼働。さらに使いやすくなった両施設を、ぜひご利用ください。



▲開発センターホール入口。中央部の段差が解消され、車イスでも出入りしやすくなった

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
役場庁舎および開発センターバリアフリー対応工事が完了
特集
ゴミを減らそう大作戦！
- P10 町政スポット
・シナノスイート安全・安心現地交流会
・朝日中2年生 まちづくり・地域づくりについて考えるワークショップを実施
・道の駅あさひまち3周年 ほか
- P12 まちレポ
・第39回 朝日町ワインまつり
・朝日町の歴史に触れる旅
・古民家ライブ「ヴィオラ二重奏」
・桃色ウサヒと女性消防団員「一日救急隊長」 ほか
- P14 りんご新半わい化朝日ロンバス栽培全国大会
- P16 住人十色
- P17 それいけ協力隊とウサヒ、町立図書館コーナー
- P18 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策、戸籍のまど、となりのリンゴさん
- P20 あさひまちアップルミートマラソン&ウォーキング

表紙の写真



町内柏原地区にあるぶどう園地「柏原ヴィンヤード」。そこで栽培されたぶどうのみを使用したワイン「柏原ヴィンヤード遅摘み赤／辛口」は、今年の日本ワインコンクールで、見事金賞・部門最高賞・コストパフォーマンス賞の3冠を受賞しました。名産ワインを生む高品質のぶどう（マスカット・ベリーA）を育てるのは、町ぶどう生産組合の皆さん。青空に恵まれた10月4日、若手生産者の皆さんと記念写真を撮らせていただきました。

町長歳時記 （146）

一人の力は大きい ～真っ直ぐで誠実な思いが 人を動かし地域を変える～

「人口の1%が前向きに活動したら、地域で何かが始まったと外から見える。1割が動いたら、もう地域ぐるみで動いているように見える」——。作新学院大学の橋立達夫名誉教授が、冊子「町村週報」に記したこの言葉を見た瞬間、私の背筋にビシッと電気が走るのを感じました。また氏は、「気がついた人が、できることを、できる時に、できる範囲でやれば地域は変わっていく」とも言っています。

9月29日、若宮寺で開催され、今年で6回目となる「寺フェス」に、なんと県内外から600人の方々が来場され、熱気溢れる演奏が本堂一杯に響き渡りました。「寺フェス」は、同寺の登坂高典副住職の長男であり、自身は僧侶兼ミュージシャンである尚高さんが、毎年主催しているイベントです。この様子を新聞やテレビのニュースが詳しく伝えておりました。

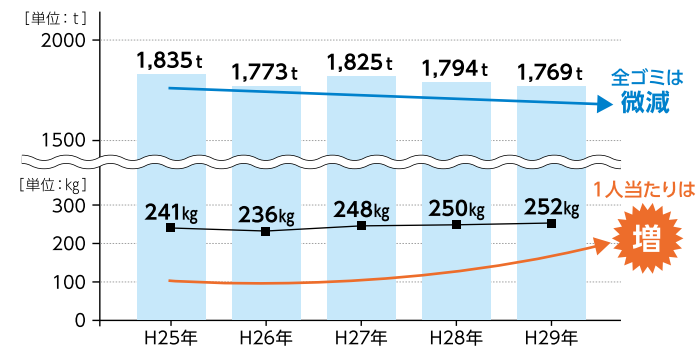
当初は少人数のスタッフで始まったイベントに、今では何十人もの若いスタッフが町内外のみならず県外からも駆け付け、一緒にイベントを作り上げている様子がニュース画面に映し出されました。特に私が心打たれたのは、演奏を聴きに來られた近所のおばあさん方に、尚高さんはじめスタッフの皆さん、そして観客の方々までもが優しく対応しておられた様子です。とても心が和み、あたたかいものを感じることができました。本堂に響く歌声とともに、聴衆の皆さんの熱い思いが大きくなねりとなって地域に元気と勇気を与えてくださったことに、心から感謝の気持ちで一杯になりました。

一人では何もできないと立ち止まっているのではなく、「気づいた人が、できることを、できる時に、できる範囲でやる」。それを実行した時、本人も成長し、まわりの仲間も動き出し、地域も変わっていくのです。

朝日町長 鈴木浩幸

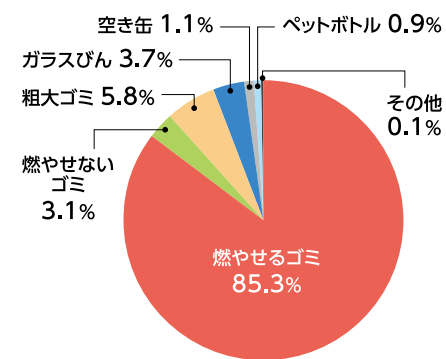
朝日町のゴミ事情

◆全ゴミ処理実績および町民1人当たりの年間ゴミ排出量



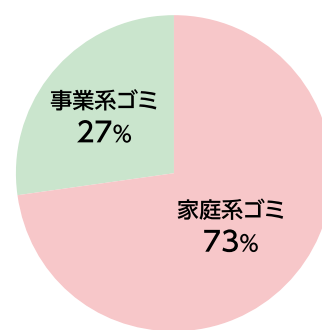
総人口の減少でゴミの総量は減っているのに、1人当たりが出す量は増えているんだ。

◆ゴミ処理の内訳 (平成 29 年度)



ほとんどのゴミは家庭から出る可燃ゴミなのね！

◆うち 家庭系ゴミと事業系ゴミの比率



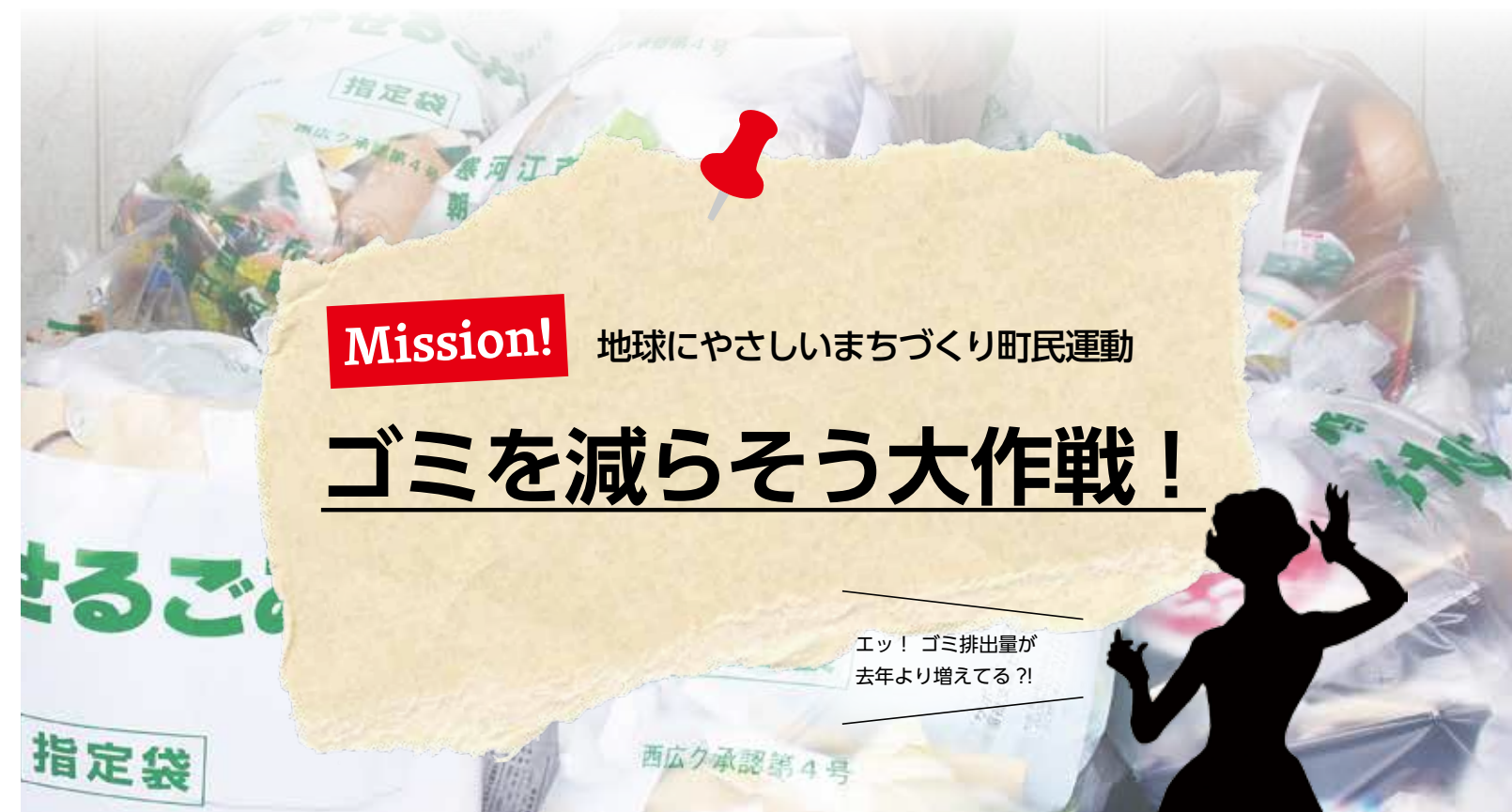
※西村山広域行政事務組合調べ「平成 30 年度 寒河江地区クリーンセンターの概要」を参考

「青い空・きれいな水と緑をみんなで守る」をスローガンに、地球にやさしいまちづくりを目指している(※)朝日町。しかし、現状は「ゴミ排出量の増加」「不法投棄問題」「野焼きによる空気汚染や火災の発生」など、多くの課題も残っています。(※)第2次朝日町環境基本計画(平成30年3月策定)より

「そこで、町民の皆さんにお願いします。」

特に、1人ひとりの取り組みが重要なのが「ゴミ問題」。そこで、ゴミの削減について、今日から実践できる「2つのミッション」を提案します。

各自、このミッションを日々の生活の中に取り入れ、きれいなまちを守りましょう。



エッ！ゴミ排出量が去年より増えてる？！



(※) 0.5 キロのゴミの例。
「エ〜ッ！これが毎日?!」

んの家庭から出るゴミなのです。
また、これは町民1人あたりで毎日約0.5キロのゴミ(※)を出している計算になります。その量の多さが、イメージできたでしょうか。

目標は、1人マイナス5キロ
「ゴミ問題は「減らす」「繰り返し使う」「リサイクルする」の3つの行動が大切と言われます。
そこで今号では、特に近年、日本全体で問題となっている「食品ロス(食べられるのに廃棄されてしまう食品ゴミ)への対策、そして誰もが協力・参加しやすい「リサイクル活動」、2つのミッションを提案します。

できることから日々の生活に取り入れ、1人年間マイナス5キロを目標に、私たちみんなで「ゴミを減らそう大作戦」を決定しましょう！

Introduction (はじめに)

現状を把握し、
目標を設定しよう

朝日町のゴミ事情

まずは、左上のグラフをご覧ください。年間1769トン。昨年度、町で排出されたゴミの総量です。
人口の減少に伴い、ゴミの総排出量は減っています。しかし、これを町民1人当たりで換算すると、年間252キロ。5年前の平成25年度と比べると、なんと10キロ以上も増加しているという驚くべき結果が見えてきました。

ゴミの7割は家庭から

増えている分は、「工場や事業所から出るゴミが多いからだろう」と考える人もいるかもしれませんが、ところが1769トンのうち、家庭から出る「家庭系ゴミ」は1288トン。総排出量の約7割が、皆さ

知っていますか？
日本では、年間646万トン、
毎日1人当たり
お茶碗1杯分（約139g）の
食べ物が捨てられています。



（※）農林水産省および環境省
「平成 27 年度推計」より

豊かな食文化の陰で

スーパーマーケットや飲食店が各地にあり、あらゆる食材や料理が気軽に手に入る日本。その陰で、毎日1人お茶碗1杯分の「まだ食べられる食品」が、ゴミとして廃棄されていることをご存じですか。
その量、日本全体で年間646万トン。これは、世界全体の食糧援助量約320万トン（平成28年国連世界食糧計画調べ）の2倍近くにのぼり、「食品ロス」として大きな問題となっています。

旬の食材で献立もひと工夫。ぜひ温かいうちにお召し上がりください。

りんごの果実が浮かぶあったまりの湯として、町内外から親しまれている「りんご温泉」。施設内にはレストランと座敷があり、様々な宴席の会場として利用されています。そこで料理の腕をふるう佐藤さんは、この道37年のベテラン。この日も大谷産のあけびなど、町産の旬の食材を取り

入れ、趣向を凝らしたメニューが調理されていました。
「おかげ様で、レストランのご利用



ではほとんど食べ残しは出ません。悩みのタネは宴会で出る残飯。特に男性が多い席だと、食事開始からお酒の注ぎ合いになり、料理になかなか手をつけていただけないことがあります。そう言って肩を落とす佐藤さん。特に終盤で提供する「ご飯もの」がそのまま残ることが多く、量を控えめにしたり、海苔巻きや麺類にメニュー変更するなど、できる限り食べきれる工夫をしているといいます。「宴会料理は仕込みに半日、できたてを提供するために2時間前から厨房3人体制で調理しています。一生懸命作った料理がたくさん残ったお皿を見ると、残念な気持ちになりますね…」

お酒の付き合いもありますが、せっかくの温かいご馳走。最後までおいしくいただきたいものです。



りんご温泉（有）地球耕望 料理長
佐藤 栄 さん（真中）

家庭で実践

これからが旬の「大根」と「りんご」。工夫次第で、ここまで食べられます！

「もったいない」と感じる心
振り返ってみてください。
すぐ使うのに、わざわざ賞味期限や消費期限が先の商品を探して購入していませんか。楽しい宴会の席で、ほとんど手をつけられていないご馳走を見たことはありませんか。スーパーや飲食店では、これらが原因で毎日多くの食べ物を廃棄しています。…「もったいない」と、思いませんか。

食品ロス削減は環境にもやさしい

1人ひとりの心がけで、食品ロスは減らすことができます。

まずは家庭で、「食材の在庫や消費期限を把握する」「上手に食べきる」こと。外食でもできる限り「残さず食べる」こと。すべての食材や料理に、多くの人の手がかかっていることを忘れてはいけません。

また、食品ゴミ等の生ゴミは8割が水分と言われます。減らせば焼却施設の負荷も低下し、処理経費や温室効果ガスの排出量も抑えられます。人にも環境にもやさしいミッション。ぜひできることから実践しましょう。



▼その他、残り物の活用レシピや、季節のヘルシーメニューを紹介する「消費者庁のキッチン」（クックパッドで検索）はこちらから



大根の皮



①きんぴら
むいた大根の皮とにんじん（皮ごと）を細切りにし、ゴマ油で炒める。醤油・酒・砂糖（各大さじ1）、ほんだし少々で味付け、仕上げにゴマを振って完成。

大根の葉



②大根葉の炒め煮
干した大根の葉を熱湯で戻し、コンニャク、油揚げ、にんじんと細切りにし、ゴマ油で色よく炒める。醤油・酒・砂糖（各大さじ1）、ほんだし少々で味付けする。

大根の葉

③大根葉のまぜご飯
大根葉のやわらかい部分をみじん切りにし、シラスと合わせて熱湯をかける。塩少々をまぶして、炊いたご飯と合わせ。仕上げにゴマを振って完成。

りんごの皮と果肉



①焼肉ソース
皮付きりんご・玉ねぎ（各2分の1個）、ニンニク1片をすりおろす。醤油大さじ3、酒・酢（各大さじ2）、砂糖大さじ1を入れ火にかけ、バター少々で味付けする。

りんごの皮



②アップルティー
むいた皮を天日干しに。約1個分の皮を2センチ程度の長さに切り、紅茶パックと共にティーカップに入れ、熱湯を注いで約1分（多めの皮のみでも可）。

りんごの皮

③のり巻きの具
天日干しした皮を切りそろえ、水適量、砂糖・みりん（各大さじ1）しょうゆ・酒（各大さじ2）で味付けして柔らかく煮る。きゅうりと一緒に、酢飯と海苔で巻く。

野菜・果物の皮や葉は栄養も豊富 「エコレシピ」で賢く使いきる。

「子どもの頃、祖母や母から教わったレシピと、食べ物に感謝する心。工夫すれば、野菜や果物は、ほとんど捨てる所がありません」
こう語るのは、エコレシピを伝えてくれた伊藤さん。町食生活改善推進協議会でも活躍する、お料理の知恵袋です。「果物は皮ごと砂糖で煮て、ジャムにすると手軽に美味しく使えます。野菜は食べきれなければ小分けにして冷凍。山菜やキノコは天日干しも良いですね」
また、残った料理は上手にアレンジ。上記以外にも、たくさん漬けて残ってしまった漬物のアレンジレシピを教えてください。

「春先まで残ったら、味を変えて漬けます。青菜漬は粕漬けがおススメ。たくあんは薄く切り、お酢と砂糖、鷹の爪で漬けると美味しいですよ。漬ける前に、おいが気になるなら軽く洗って。最後まで無駄なく、大切にいただきますよ！」



朝日町食生活改善推進協議会
副会長 伊藤 キエ子 さん（大町）

さんまる・いちまる

そこで実践！「30・10」運動

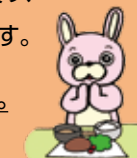
宴会での食べ残しは、ランチ・定食の約4倍！（平成27年度農林水産省「食品ロス統計調査」）
キーワードは「30・10」。乾杯後の30分間と終了前の10分間は、料理を楽しもう！

事前に

参加者の好みや、食べられない食材等をあらかじめ把握し、年齢層や男女比を含めて、お店とメニューの相談をします。

宴会中

乾杯後30分は歓談しながら温かい料理を味わいます。お開き前の10分は再び席に戻り、「食べきり」を心がけます。



◆幹事の皆さんは、ぜひ乾杯の際にひとこと、当運動の声掛けをお願いします。



これから
できる

「資源回収」に協力しよう！

◆廃食油の回収

使用済みの食用油を随時回収しています。地域のゴミ集積所に、ペットボトル等の容器に入れてお出ください。回収され、畜産飼料等に活用されます。



◆不要になった携帯電話、スマートフォン（レアメタル資源）の回収

町役場総合窓口にて、不要となった携帯電話およびスマートフォンを回収する専用BOXを設置しています（下写真）。データを消去のうえ、ご持参ください。回収後、レアメタル等の資源を取り出し、2020年の東京オリンピックのメダルに活用されます。



◆地区子ども会等「資源回収」

地区の子どもたちが回収に伺います。「お知らせ板」および「地区の回覧板」で告知する回収時間までに、自宅前または回収場所へ、まとめてお出ください。



【回収可能なもの】

新聞紙、雑誌、雑紙、段ボール、衣類（スキーウェアやダウンジャケット等の綿入りのものは不可）



今のきれいな環境を未来へ。
空気を大切にする町の企業として、
当然の責任だと思っています。

国道287号線宮宿バイパス沿いにある「フレッシュストアヒグチ」のデマンド（乗り合い）タクシーの停留所にもなっており、口頃から多くの町民が利用しています。店頭入り口（タクシー待ち合点）には、「リサイクル用トレー回収」の文字。ヒグチでは、使用済み食品トレー（エコトレー表示のあるものおよび納豆以外の発泡容器に限る）、牛乳パック、卵パック、アルミ缶を回収し、リサイクル業者へ処理を引き継いでいます。「他にも、お客様に向けてはエコバッグの推奨、バラ売り対応、惣菜

等の簡易包装を提案。社内では再利用できる梱包資材等の分別を徹底、廃食油も回収業者へお渡しするなどリサイクルに努めています」と樋口義一代表。自前のエコバッグを手に、「世界で唯一の空気を神社があり、きれいな自然を大切にしている朝日町。この町で商売をしている企業として、「ゴミの削減や環境への配慮は当然の責任です」と、環境保全への思いを語ってくれました。ヒグチ店頭では、各リサイクル資源の回収を開店時間に常時行っています（アルミ缶は店外の機械で24時間受付）。上手に活用して、「ゴミを削減しましょう」。



朝日中学生の取り組み

◀活動が広がり、協力する町民も増えた（9月9日の回収日）

アルミ缶を集めて「車イス」を購入。福祉施設等に寄付しています。



朝日中学校生徒会 副会長
志藤 侑可子 さん（栗木沢）

生徒会のボランティア活動として、「アルミ缶」と「ペットボトル蓋（エコキャップ）」を回収しています。以前は生徒の家庭のみでの回収でしたが、平成26年度から、広く地域へ働きかける活動へと発展しました。集めたアルミ缶はアルミ資源として業者へ搬入し、売却したお金で車イスなどの介護用品を購入。町内の福祉施設等へ毎年寄付しています。

近年は生徒自らが回収告知のチラシを配布するなどPRに努め、地域の皆様のご協力により、回収量も格段に増えています。昨年は過去最高の3,450キロが集まり、4台の車イス等を寄付することができました。

今後は11月に今年最後の回収日があります。生徒一丸となって回収にあたりますので、ぜひご協力ください。

ご協力
ください



◆次回 回収日のお知らせ

日時 11月4日（日）
午前8時～午後2時

※地域によって回収時間が異なります。
※事前に生徒が案内チラシを配布します。

場所 生徒が住む地区の公民館

※または、直接朝日中学校までお持ちください。

◆諸注意とお願い

- ☑ アルミ缶は中をきれいにしすぎ、中央を軽くつぶしてください
- ☑ 中身が見える袋に入れてお持ちください
- ☑ アルミ缶とエコキャップは別々の袋にお入れください

（※）日本のリサイクル率 約 20%

ここ10年間は横ばいの状況
これって多い？ 少ない？

／ どう思う？

（※）環境省「平成28年度一般廃棄物
処理事業実態調査」より



（※）西村山広域行政事務組合 平成30年度
寒河江地区クリーンセンターの概要を参考

地域や学校の資源回収にご協力を
当町のゴミ処理を担う寒河江地区
クリーンセンターでは、ビン・缶・ペッ
トボトル等を「資源ごみ」として回
収し、リサイクル業者へ渡しています。
また、地域の皆さんもゴミの削減
に動いています。各区子ども会等
による資源回収、事業所による使用済
み食品トレーの回収、朝日中学校で
はアルミ缶・エコキャップを回収し、
ボランティアの寄付に充てています。
ゴミの分別はもちろん、これらの
取り組みに積極的に参加し、みんな
できれいな町を守っていきましょう。

分別すれば新たな「資源」に
しかしながら、日本のリサイクル
率は10年前から約20%で横ばい状
態。西村山広域では約6%（※）と、
決して高い数値とは言えません。
容器を洗浄したり、素材別に分
別したり、リサイクルは確かに「ひ
と手間」かかるもの。しかし、多く
の包装ゴミは、きちんと回収され
ば再利用できる「資源」となります。

割が定められました。

国をあげて推進する「リサイクル」
多くの環境問題につながるゴミの
増加を受けて、国では、平成7年
に「容器包装リサイクル法」を制定。
家庭から出るゴミの約6割（容積比）
を占めるという「容器包装廃棄物」
について、①自治体は家庭から出た
容器包装を分別収集すること、②事
業者は利用した容器包装の量に応じ
て再商品化の義務を負うこと、③消
費者は自治体が定める分別ルールに
従って分別排出すること、という役

Mission
②

町民運動に参加（協力）して、リサイクルを促進しよう！

寄付採納報告



さがえ西村山農業協同組合（柴田清志代表理事組合長）および全国共済農業協同組合連合会山形県本部（長澤豊運営委員会会長）によるカーブミラーの贈呈式が、10月2日、町長室で行われました。

「地域の交通安全に役立ててほしい」と昭和48年より行われているもので、今回は4基が寄贈されています。これらは今後、見通しが良くない交差点などに設置される予定です。

道の駅あさひまち3周年

■総合産業課 交流観光係 ☎67-2113

10月1日、道の駅あさひまち「りんごの森」がオープン3周年を迎えました。3周年で、来場者数はのべ



大盛況の3周年イベント（9月30日）

115万7000人を突破。総売り上げは約5億5700万円となり、今年度上半期で昨年度同期比106%と、好調を維持しています。

9月30日に行われた3周年記念イベントでは、杵つき餅の無料ふるまいや特設ステージでのバンド演奏、出店屋台でもてなし。店頭には中生種はもちろん、生産農家の少ない珍しい品種のりんごも多数並び、当日は県外ナンバーの車が多数訪れて大盛況となりました。

みんなに届け安全なりんご シナノスイート安全・安心現地交流会

■農林振興課 農政係 ☎67-2114



収穫期を迎えたりんご中生種の主力「シナノスイート」の安全、安心を確認する現地交流会が10月3日、志藤清市郎さん（川通）の園地で開かれました。

交流会には消費者の代表として、あさひ保育園の年中組園児34人と、食生活改善推進協議会の役員のほか各関係者が参加。園児たちが残留農薬検査用のサンプルりんごの採取に協力し、堀秋哉くん（本町）と多田朱里さん（本町）が、JA全農山形の担当者に手渡しました。

「春先は好天に恵まれ、十分な着果数が確保された。酷暑であり、雨も少なかった影響で実はやや小ぶりだが、その分甘味が強く、おいしいりんごに仕上がっている」と今年の生育状況を話す志藤さん。これから収穫のピークを迎えるシナノスイートは、10月上旬から10月下旬まで、中生種の主力品種として、消費者へ届けられます。

会終了後には、「秋陽」の試食が行われ、園児らは「甘くて美味しい」と笑顔でりんごを頬張っていました。

各種スポーツ大会の成績

■西村山中学校新人総合体育大会（9月22～23日）

※★印は県南ブロック大会（10月20～21日）出場

【団体戦】

▼1位

剣道男子★

（先鋒：東海林泰智、次鋒：佐藤慧典、中堅：渡辺友介、副将：堀文悟、大将：藤田晶）

▼2位

卓球女子★

（梅津彩果、安藤梨華、渡辺日花、長岡萌実、松尾神那、佐竹来夢、長岡優亜）

▼3位

バスケットボール男子、卓球男子、柔道女子、野球

▼4位

バスケットボール女子、柔道男子、ソフトテニス男子

【個人戦】

▼1位

剣道男子東海林泰智★、柔道男子66キログラム級若月真都偉★、柔道女子52キログラム級佐竹萌★、柔道女子63キログラム級若月保歩★

▼2位

剣道女子清野凜華★、柔道女子48キログラム級白田華里

▼3位

剣道男子藤田晶★、卓球女子安藤梨華★、柔道男子50キログラム級遠藤修吾、柔道男子60キログラム級阿部風

▼ベスト6

卓球女子梅津彩果★

▼ベスト8

剣道男子渡辺友介★、剣道女子堀雪菜★

朝日中2年生 総合的な学習の時間「LIVE in ASAHI ～朝日町と私たち～」まちづくり・地域づくりについて考えるワークショップを実施

9月13日と18日の両日、朝日中学校2年生48人が、町職員や東北芸術工科大学と協力し、まちづくりについて考えるワークショップを行いました。

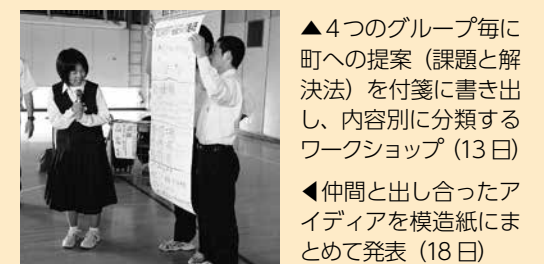
総合的な学習の時間で取り組む探究型学習の一環。同学年は一学期から「地域と私たち」をテーマに活動し、町の歴史や魅力を知るとともに、地域とのつながりを深めてきました。

ワークショップは、第6次町総合発展計画の基本目標に沿った「産業経済」健康



福祉「生活環境」「地域づくり」の4グループ（×2クラスの8班）に分かれて実施。18日は美術の時間で、東北芸術工科大学の吉田卓哉准教授を講師に、特産品や観光地、または地域課題などの既存の要素を組み合わせて新たな価値を創造する「発想・構想の立て方」について学びました。

同学年では、今学期中にこれらの学習から企画書をまとめ、12月にまちづくりのアイデアを町に提案する予定です。



▲4つのグループ毎に町への提案（課題と解決法）を付箋に書き出し、内容別に分類するワークショップ（13日）

▲仲間と出し合ったアイデアを模造紙にまとめて発表（18日）



9/3 山形交響楽団のプロ奏者が名曲を披露 古民家ライブ「ヴィオラ二重奏」

昔話語りや古民家を活用したイベントを開催し、まちおこしを行う「星の会（成原千枝代表）」主催の「古民家ライブ ヴィオラ二重奏」が9月3日、「宿のやかた」（前田沢）で行われました。町内外から約60人が参加。山形交響楽団のヴィオラ奏者、倉田譲氏・田中知子氏が、「G線上のアリア」などの名曲8選を披露しました。また、当日は演奏会のほかに楽器と触れ合うコーナーも実施。参加者はプロの指導を受けながらヴィオラの演奏体験を楽しんでいました。



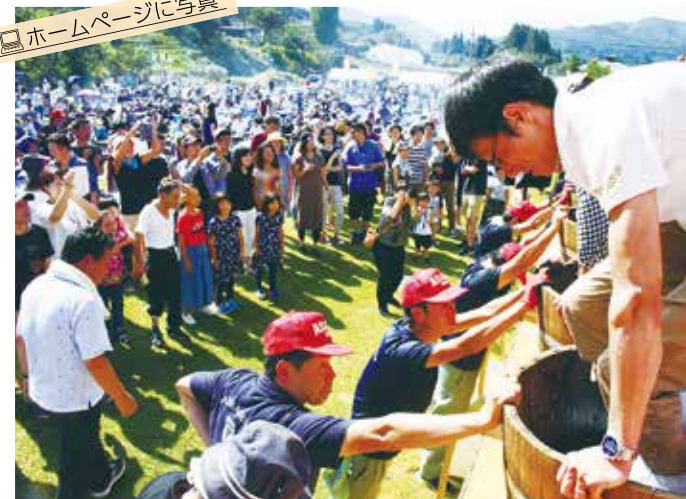
▲心臓マッサージのやり方を学習
▶隊長任命式の様子。みんなで敬礼！



9/12 救急の日の啓発活動 桃色ウサヒと女性消防団員「一日救急隊長」

9月12日、町PRキャラクター桃色ウサヒと女性消防団員4人が、西村山広域行政事務組合の消防朝日分署で一日救急隊長を務めました。救急医療や救急業務について理解を深める「救急の日（9月9日）」の啓発活動。ウサヒ隊長は今年で6回目、女性消防団員は3回目の任命です。当日は委嘱状交付を受けたあと、あさひ保育園や大谷小学校を訪問。小学校では寸劇と実践による「心肺蘇生法」の講習が行われ、児童たちは救命の大切さを真剣に学んでいました。

ホームページに写真



▲観客も大盛り上がりの「ブドウ踏み競争」
◀新成人の「ワイン娘」がワインをサービス



9/23 今年の新酒ワインを堪能 第39回 朝日町ワインまつり

9月23日、創遊館芝生広場で第39回朝日町ワインまつりが開催され、約1,500人の来場者が、この秋しぼりたてのフレッシュなワインを堪能しました。近年は、前売り券が即日完売という人気を誇る当イベント。前日まで心配された天候も無事回復し、気持ちの良い秋晴れの1日となりました。今年は、赤・白・ロゼのワインを合計1,600リットル、ぶどうジュース約400リットルを用意。参加者は町自慢のワインを存分に味わうとともに、県産牛肉と、放牧で育てられた町特産のあつぷるニュー豚でバーベキューを楽しみました。

また、会場では桃やブドウ、天然キノコ等の秋の味覚が販売されたほか、樽桶に入れた10キロのブドウを踏んで搾り出した果汁の重さを競う恒例の「ブドウ踏み競争」が行われ、抽選で選ばれた12組が出場。周囲に果汁を飛ばしながら力強く踏みしめ、豪華賞品を狙って競い合いました。

寒河江市から初参加という女性は、「新酒のロゼが飲みやすくおいしい。バーベキューも楽しいし、また参加したい」と笑顔で話していました。

10/1 結婚50年の節目を夫婦で祝う 金婚祝賀会

結婚50年の節目を迎えた夫婦を対象とした金婚祝賀会が10月1日、Asahi自然観で行われました。今年金婚を迎えるのは昭和44年に結婚した夫婦で、対象23組中15組が出席。伊藤五三雄さん・洋子さんご夫妻（能中）が出席者代表として賀詞贈呈を受け、五三雄さんが「妻の後押しで造園の仕事を立ち上げ、苦労があっても支え合って生きてきた。今後も夫婦仲良く、地域づくりに参加しながら、町の発展に貢献していきたい」と謝辞を述べました。



10/6 ブドウの収穫を祝い、交流を楽しむ 葡萄の木オーナーワイン収穫祭

葡萄の木オーナーワイン制度の収穫祭が10月6日、朝日町ワイン城で開かれ、オーナーとその家族など約600人が参加しました。葡萄の木1本のオーナーとなり、一口で、720ml入りの特製ワイン（メルロー・赤またはシャルドネ・白）6本を受け取れる当制度。毎年大好評で、今年のオーナーは361人となりました。参加者はワインの原料となるブドウの収穫を祝い、芋煮やバーベキューとともに、仕込みたてのワインを堪能していました。



▲「星の会」による民話語り
◀町の特産、旬の「あけび」を使った豪華なあけび御膳



▲浮嶋稲荷神社の最上宮司の案内で歩く「名勝 大沼の浮島」
▶今が旬のあけび園地を見学



9/26 町観光協会が主催する朝日町満喫ツアー 朝日町の歴史に触れる旅

町観光協会が主催する「朝日町の歴史に触れる旅」と題したツアーが9月26日に行われ、宮城県各地から40人が参加しました。

仙台駅発着で企画し、昨年も好評を得た町めぐりツアー。町の特産、あけびの園地（五十嵐義信氏園地）を視察し、生の果肉や天ぷらを試食。その後、民話でまちおこしをする「星の会」による昔話を聞きながら、特製あけび御膳をいただきました。今回は更に、大行院第52代当主である最上俊一郎宮司の案内のもと、名勝大沼の浮島を見学。参加者は町の文化や歴史に触れながら、朝日町の秋を満喫しました。

友人と誘い合わせて夫婦で参加したという女性は、「あけび尽くしのツアー内容に魅力を感じて参加した。家でも時折あけびを食べるが、春巻きやプリンなど、美味しくて珍しい料理が食べられて大満足。朝日町には、またぜひ訪れたい」と嬉しそうに話していました。

「新半わい化」
「朝日ロンバス方式」
ってなあに？

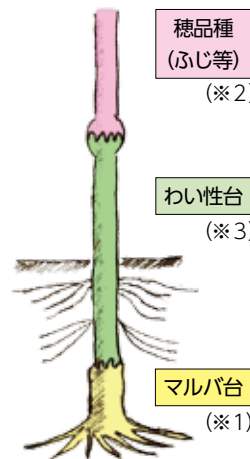


▲4本の主枝をパイプとワイヤーで補強する「朝日ロンバス方式」の基本骨格

新半わい化

マルバ台(※1)と穂品種(※2)の間に、わい性台(※3)を接ぎ木した苗木を定植する。植栽間隔は5×5m程度で、従来のわい化栽培より樹の大きさはやや大きい。早期に4本の主枝を形成し、開心形(※4)に仕立てる。木がコンパクトで低樹高であるため作業効率が良く、受光も良いため薬剤散布も容易。

(※1) ヒメリンゴの変種で虫に強いマルバカイドウの台木
(※2) ふじ等、収穫を目的とする品種
(※3) わい性=矮性。樹を小さく育てるための台木
(※4) 樹や枝の成長を剪定によって横に広げていく形



朝日ロンバス方式

新半わい化樹の4本の主枝に鋼管パイプを添え、そのパイプをエスター線(ワイヤー)で釣り上げる方式。ロンバスはその形を表す「ひし形」の意。特長として、主枝をパイプおよびエスター線で補強するため、雪害に強い点。そして主枝をパイプに固定するため、そのパイプを目安として枝の形成が容易にできる点などが挙げられる。また「見た目でも理解しやすい」ため、経験の浅い新規就農者でも実践しやすい。



1～3.「朝日ロンバス研究会」の阿部為吉会長(常盤)の園地視察の様子。多くの参加者が写真撮影や質問をしながら、栽培法を学んでいた

4. 県農林水産部の佐藤隆士氏をコーディネーターとして行われたパネルディスカッション。登壇者【上写真左から/敬称略】浅岡正昭(定年帰農者代表)、浅野勇太(ロンバス方式考案者・新規就農者代表)、志藤清市郎(大谷果樹組合組合長)、會田孝裕(県農業総合研究センター園芸試験場主任専門研究員)、千田誠治(JA 秋田ふるさとりんご部会支部長)、戸谷公次(開心形半わい化樹考案者・元長野県果樹研究会 指導部長)



低 樹高で小さく育て、剪定も容易な「開心形半わい化(新半わい化)」の技術を取り入れ、更に雪による枝折れ被害を軽減する「朝日ロンバス方式」を組み合わせた「新半わい化朝日ロンバス栽培」。朝日ロンバス方式考案者である浅野勇太氏(当町就農者/白鷹町)は、「豪雪地でも作業しやすく、植樹から早い段階で収穫ができる当栽培法は画期的であり、経験が浅くても実践しやすい。他果樹への応用も期待でき、将来性や夢がある」と、今後の更なる研究に意欲を燃やしていました。

9 月20日と21日の両日、「りんご新半わい化朝日ロンバス栽培全国大会」が当町を会場に行われ、全国のりんご生産者および関係者等約120人が参加しました。
雪害に強く、作業の省力化と早期多収が期待できる同栽培法(詳細上記事)について広く推進するとともに、生産者等の交流を促し、技術の向上、産地の活性化を図る目的。大会では、2日間に渡って町内6園地と県農業総合研究センターの園芸試験場を視察。また、20日には「新半わい化栽培における早期多収に向けた取り組みについて」と題し、実践者および有識者等7人によるパネルディスカッションを行いました。

りんご新半わい化 2018.9.20(木) - 21(金)
朝日ロンバス栽培全国大会



協力隊に着任してから半年が経ち、この町の暮らしにも慣れてきました。

仕事やプライベートで町内のイベントに参加したり、広報委員として委嘱を受け、自分なりの視点で意見を述べる機会もありました。体感としてはあつという間でしたが、私の中にはしっかりと人との出会いや学び、発見が残っています。

私が現在、特に力を入れて取り組んでいるのは、勤務する「ゲストハウス松本亭」農舎」で起こった出来事などを紹介する「松本亭通信」の作成です。

この通信は月に1回、常盤地区の回覧板で回しているのですが、「相手に正しく伝わること」



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平まちづくり総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

「朝日暮らし近況報告」

移住・交流推進員(地域おこし協力隊) **村山夏渚** (中山町出身)



地域の方から、大きな天然舞茸をいただきました！

「読みやすい表記を選ぶこと」など、常に読者を意識して記事を書いていきます。はじめは要領がわからず、配布日の当日に区長さんにお渡しするなど、ご迷惑をおかけすることもありました。今はこうした失敗を踏まえて緊張感を持ちつつ、完成した時の達成感を楽しみに作っています。もし手にとる機会がありましたら、ぜひ読んでみてください。

また、私事ですが、9月に研修旅行で四国へ行ってきました。東北とは違う気候や文化、人柄、町の広がり方、自分の知らない世界がたくさんありました。

朝日町に帰ってきて感じたのは、自分はまだ手の届く範囲しかこの町を知らないということ。今年も残すところあと2カ月です。雪が降る前に、自分の足でまだまだ知らない朝日町を開拓していきたいと思っています！



▲日頃の活動について、近隣市町村の仲人さん等と情報交換
◀企画したイベントチラシを手にする小林さん



女性目線で 様々な婚活イベントを企画

「朝日町婚活推進連絡会議」会長 **小林 幸子** さん(大沼)

町全体の課題として、独身男女が結婚を前向きに考えられるようにサポートしようと、平成23年に結成された「朝日町婚活推進連絡会議」。その現会長として、町で仲人活動をしながら、様々な婚活イベントの企画を行っている小林幸子さんに、日頃の活動についてお話を伺いました。

「昔と違って、今の若い人はあまり恋愛に積極的じゃないみたい。でも、だからこそ、私みたいな世話焼きおばさんが時には必要なのかな、と思いますね」——。5年前、同連絡会議のメンバーとして、「地域婚活サポーター」に委嘱された小林さん。過去に縁を取り持った経験もあり、「自分で力になれるなら」と引き受けました。

同会議では、年に2回、若者世代を対象としたカップリングイベントを主催しています。以前から野外バーベキュー等の企画を実施してきましたが、小林さんが会長になってから、スポーツや手づくり体験、バスツアーなど、様々な趣向のイベントを行い、

好評を得ています。

「企画については、他市町村のイベントにお手伝いで参加しながら勉強しています」と語る小林さん。数年前そこで出会ったのが、モノづくりと婚活を組み合わせたイベントでした。「その会場では、初対面同士でも自然に会話が弾んでいて、みんな良い雰囲気だったんです。考えてみると、社会人男女が共同作業する機会って、随分減っているんですね」

それから女性目線で参加してみたいと思える「デコレーションケーキ作り」や「フラワーアレンジメント」などの体験イベントを多数企画。今年は「農業体験」と組み合わせたイベントを10月に予定しており、女性定員がすぐ満了という人気となりました。毎回男女20人程度の募集で、平均約3割がカップル成立。その後の追跡調査が困難という課題はあるものの、同会議主催のイベントから成婚に至ったカップルもあり、その効果は少しずつ見えてきています。

「色んな人がいるから、とにかく多

くの『きっかけ』を提供したい。また、今回カップルになれなくても、『次も来てみようかな』と前向きに考えてもらえるように、1人ひとりに目を配っています。町外からはるばる参加してくれた女性には、仲人として引き続きのサポートができるように声掛けをしているという小林さん。また、イベント参加者には、カップル成立後でも気軽に恋愛相談をしてほしい、とその思いを語ります。

「結婚に悩む人が多い現代。でも、せっかく生まれたからには、ぜひ生涯支え合えるパートナーとの出会いを探してほしい。すぐにうまくいかなくても当たり前。1人でも多くの方に『おめでとう』が言えるように、私たちが精一杯相談に乗りますし、お手伝いしたいと思っています」

朝日町婚活推進連絡会議主催の婚活イベントは年2回程度、町内にはチラシを全戸配布しています(その他町ホームページ、やまがた出会いサポートセンター等でも告知)。秘密厳守ですので、ぜひご参加ください。

町立図書館新刊案内

「夏井いつきの『月の歳時記 秋』」
夏井 いつき 著



バラエティ番組「プレバト!!」で人気の俳人・夏井いつきが、「月」という季語を取り上げ、美しい写真とともに、古き良き俳人、現代に生きる市井の俳人による例句を紹介する。「月」と季語のカルレングラ」も掲載。

「絵本 星の王子さま」
サン・テグジュペリ 原作
マク・オスボン 監訳／堀あいえ訳



砂漠に不時着した飛行士に、「ピッジの絵をかくて」と話しかけてきたのは、ふしぎな男の子「王子さま」だった。2015年に公開された映画「リトルプリンス 星の王子さまと私」のパペットアニメを使用した絵本。



【ブックテーマコーナー】
「夜の図書館」特集
～見上げてごらん 月と満天の星空を～

【その他の新刊】
▼信長の原理／垣根涼介 ▼対岸の家事／朱野明子 ▼地球星人／村田沙耶香 ▼鳥居の密室／島田莊司 ▼「生活保護法」から「生活保障法」へ／生活保護問題対策全国会議 ▼TAS特別師弟捜査員／中山七里 ▼漂砂の塔／大沢在昌 ▼いちごの唄／岡田恵和 ▼看る力／阿川佐和子 ▼江戸無血開城の深層／磯田道史 ▼花だより／高田郁 ▼愛なき世界／三浦しをん ▼影を恋しき／葉室麟 ▼七つの試練／石田衣良 ▼万引き依存症／斎藤章佳 ▼仮想通貨はどうなるか／野口悠紀雄 ▼だから生きる。／つんく ▼到達不能極／斎藤詠一 ▼TEN／楢岡平 ▼はしからはしまで／梶よう子 ▼ひとつむぎの手／知念美希人 ▼農業崩壊／古田忠則 ▼七つの会議／池井戸潤 ▼白銀(しろがね)の巫女／乾石智子 ▼思い出が消えないうちに／川口俊和

戸籍のまど

Asahi town

9月1日～9月30日届出

Marriages

おしあわせに

佐竹 定
(常 盤)



奥山 そよか
(山形市)

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
元 町	稲 村 彦 一	恒 行
栗木沢	佐久間 千代江	優
西 町	樋 口 昭 二	正 子
大 滝	柴 田 マサエ	隆
松 程	白 川 雄 熙	広 之
能 中	渡 辺 治 雄	一 雄
大船木	佐 藤 喜 助	喜 久

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●平成30年 9月30日 現在
※()内は先月比

人 口 6,915 人 (－13)
男 3,424 人 (－10)
女 3,491 人 (－3)
世帯数 2,431 世帯 (+4)

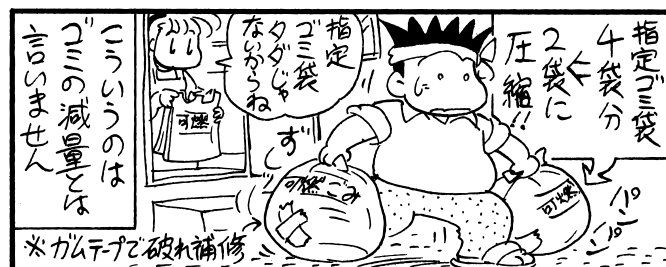
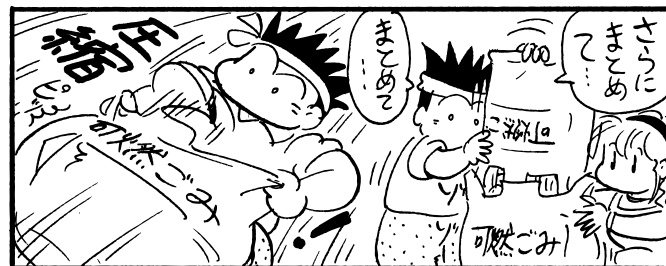
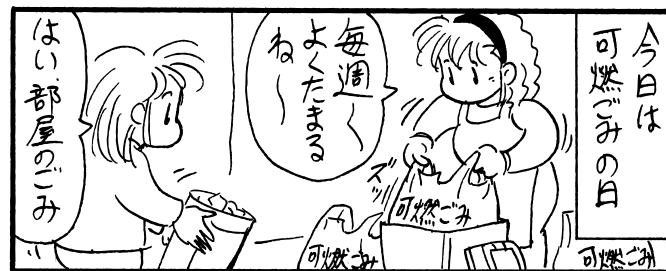
----- 9月中の異動 -----

出生 0人 転入 8人
死亡 8人 転出 13人
(※外国人を含む)

とないのリンゴさん

(306)

ホリイ



これからの朝日町の
国際交流について考える

あさひ国際交流 推進フォーラム

当日は、今年度の海外派遣事業でアメリカに渡った中学生たちによる学びの報告会、町ならではの「おもてなし」を考えるグループワーク、関係機関および団体による情報交換会などを行います。

興味のある方はどなたでも、ぜひお越しください
(報告会視聴のみの参加も可能です)。

▶日 時 11月10日(土) 午後7時～8時50分
▶場 所 創遊館 2階
ワークルーム3・4

▶問合せ先
朝日町教育委員会(教育文化課)
☎0237-67-3302



早期発見、早期治療が大切

「目指せ!がん検診精検率 100%」

【平成30年度 第7回】

今月の担当 … 古澤 美里 保健師



皆さんの中には、「がん検診」を受けた結果、精密検査に該当し、急いで医療機関を受診したという経験のある方もいらっしゃるかと思います。

昨年度、町の「肺がん」「子宮がん」「乳がん」検査を受けた方については、再検査に該当した全ての方が、その後医療機関にて精密検査を受けていました。一方、「胃がん」「大腸がん」については、約8割の方が精密検査を受けていましたが、残りの約2割の方は受けていないという結果でした。精密検査の受診率は年々高くなっていますが、ご紹介したように、一部のがん検診については100%に至っていない現状です。

病気は早期に見つけて治療することで、体への負担が軽くなること、さらには経済的な負担も



	月 日	受付時間
早朝健診	10月31日(水)	6:30～7:00
1日健診	11月6日(火)	8:00～8:30
	12月10日(月)	
レディース 検診 (子宮・乳がん)	1月8日(火)	13:00～13:30
	10月22日(月)	
	11月12日(月)	
	11月15日(木)	
	11月21日(水)	
	12月19日(水)	

少なく済みます。検診で精密検査が必要になった場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

合わせて10月は「がん検診推進強化月間」、「がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間」です。町では、寒河江成人病センターで受診できる健診(検診)を左記日程で実施しており、一日・早朝健診には、各種がん検診も含まれています。今年度の日程も残り少なくなっています。まだ受けていない方は、健康福祉課まで申し込みください。

▼問合せ先
健康福祉課 健康推進係
☎67・2116

町全体が博物館!

朝日町エコミュージアム

サテライト散策



【おすすめの季節】
田植え期の5～6月や稲刈り期の9月下旬～10月

くぬぎだいら

第16回 榎平の棚田

【DATA】国道287号線の四ノ沢交差点から西の町道能中・一本松線に入り、八天橋・元能中を経て約2.2km

能中集落の西側にある棚田で、平成11年に「日本の棚田百選」に出。面積は約14ヘクタール、約200枚の水田が扇を広げたように並んでおり、「扇状棚田」といわれます。昭和18年、戦時中の食料確保策として桑畑を開田したもので、昭和21年に完成。ハツ沼の油子沢と、南側下を流れる最上川からポンプで水を上げています。生産量は、年間約60トン。平成17年から杭掛けによる自然乾燥米に取り組み、ブランド米「榎平の棚田米」として販売しています。

国道からのアクセスの良さと一本松公園からの眺めの良さで、町でも人気の観光地だよ。地元では棚田での生産活動や維持管理、併せて景観保全の活動に地区外の人達にも協力を募るため、「榎平棚田保全隊」を組織。作業への協力に応じて「棚田チケット」を発行し、収穫感謝祭で農産物等と交換できる取り組みをしているんだ。

案内人の
つぶやき





あさひまちアップルミートマラソン&ウォーキング

10月20日(土) 午前9時スタート!



4回目となる今年は「無袋ふじ発祥の地」の和合地区をメイン会場に、コースを大幅リニューアル! 友和館を発着点とする、クォーターマラソン部門10.5キロ、ウォーキング部門7.5キロのコースです。当日は、両部門合わせて218人が出場予定。沿道の皆さまの温かい応援、よろしくお願いします。

※今年も本誌と一緒に「応援小旗用のシート」をお配りしています(写真右)。割り箸とセロハンテープで簡単に作れますので、ぜひご活用ください。

◆問合せ先 政策推進課 ブランド推進係 ☎67-2112

今年はなんと!
「応援賞」もあるんです



応援小旗で声援を

朝日町の出場者です。応援よろしくお願いします。

【五十音順、敬称略】 青木亮太(西町)、浅岡若菜(西町)、阿部和幸(西原)、阿部淳子(元町)、阿部信行(元町)、安藤茂雄(松原)、安藤剛志(西船渡)、川口幸男(大暮山)、熊谷尚子(新宿)、小嶋泰我(大谷四)、佐久間淳(栗木沢)、佐久間陽愛(栗木沢)、佐久間陽子(栗木沢)、白田保則(大谷六)、鈴木和子(西船渡)、鈴木久美子(大町)、鈴木詩織(大町)、鈴木千都(大町)、鈴木浩幸(大町)、鈴木満(高田)、清野寿浩(小原)、長岡和之(大谷三)、長岡好(前田沢)、長岡定(大谷四)、長岡輝喜(新宿)、長岡正子(大谷四)、成原孝一(前田沢)、成原千枝(前田沢)、早坂健一(大谷五)、古川まどか(立木)、宮本建一(西船渡)、村形寿彦(栄町)

春夏秋冬
編集後記

きれいな空気と
りんごのある町

◆特産りんごの収穫期に突入した9月中旬、「新平わい化朝日ロンバス栽培全国大会」が開催されました。恥ずかしなながら、難しい専門用語は分からなかったのですが、コンパクトで雪害に強く、新規就農者でも理解しやすい画期的な栽培法だということ。そしてその考案に寄与したのが、当町で就農した若手生産者の方だということ。これで、これからの町の農業、そしてりんご産業に、明るい光が見えた有意義な大会だったと思います。村山彩

◆きれいな空気に感謝する「空気神社」がある唯一の町、朝日町。なればこそ、環境問題については、他自治体以上に力を入れて取り組んでいくべきではないでしょうか。そこです。身近なゴミ問題です。目標を年間マイナスイナス5キロとしましたが、無理はせず、普段の生活の中でできそうなものから実践してみてください。夕飯の買い物前に冷蔵庫の在庫を確認するだけでも、無駄買いが減らせるはずです。